

# アラスカ旅行記 男女4人アラスカ物語？

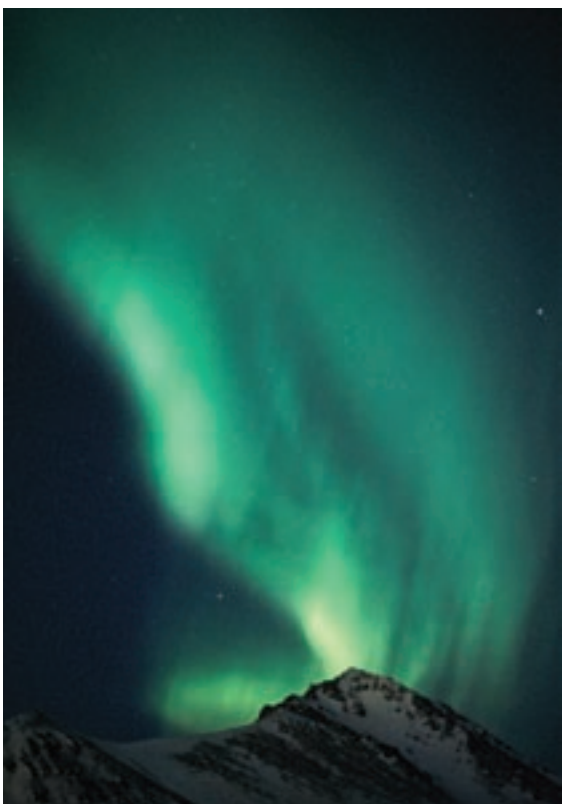
紀行文/畑尻郷



ある秋の日、一本の電話がかかってきた。大学の後輩のソウイチである。「オヤジ、どっか年末旅行いかねえ？」ソウイチとはどうも冬に旅行する傾向がある。お互いに「アタカホヤホヤアイルランド」よりも寒い冬は寒冷地をガシガシ旅するのがお互いの感性にあっているようなのである。「それじゃ、アラスカに行かないか？極寒の夜空でオーロラ観測なんて結構いいじゃない。」と答えた。

## 旅をするのには色々な理由があるだろう？

私もアラスカは是非、行ってみたい場所であったし、ましてやオーロラは絶対に見てみたいものだ。ソウイチは「ソウイチは「いいねえ。それで行くー」という感じで話がまとまった。するとすぐに同じく後輩のミツコとユキノから電話がかかってきた。キヤビキヤビと「私達も連れてって！」という感じである。しかし硬派の代名詞であるオヤジと私とソウイチは「女は駄目だ。これから俺達が行く所はハードな極寒の地なんだぞ」とってなことを言ってみたものの、女性にとって「オーロラ」はとってもロマンチックな魅力を感じる様で、なかなか引かない。結局、硬派な我々も「しょうがないなあ」ということになり、「男女4人アラスカ物語」が成立することになった。



アラスカ上空を彩る光のカーテン、オーロラ。まさに地球が夢を見ている瞬間。



## アンカレッジへ到着！

12月27日、時計を見ると既に夜の3時近くだった。シカゴを発つて、既に9時間機内にいることになる。今回の旅行で、唯一あるアラスカ航空の直行便を取るが、航空の直行便を取ることで、仕方がなくシカゴを経由してしまっていたのである。シカゴで乗り換えるのと、この冬に真ん中にも関わらず飛行機は満席だった。隣の女性は、年末年始を故郷で過ごす為に仕事を終えてこの飛行機に乗っている。彼女も私に「何の為にアラスカへ行くの？」と聞き返してきた。「オーロラが見たくてね。」と言うときよんとした顔で、「Welcome to the Big Icebox!」(ようこそ巨大な冷蔵庫へ！)と言われた。なるほど、「巨大な冷蔵庫」とは面白い言い回しだ。実はこの表現は昔アメリカ人がロシアからアラスカを購入した時、マスコミが一斉に罵った時のフレーズである。「Seward's Folly」と言われたアメリカのアラスカ買収は世論がなげきつた。巨大な何もない土地を買った。税金の無駄遣いとまで言われた。19世紀初頭に金鉱が発見され、やがて20世紀半ばには油田が発見されるなど、アメリカにとってその「冷蔵庫」は買つて十分元がとれる程の利益をもたらすことになるといえる。彼女の言葉の意味は



## アンカレッジへ到着！

きつと「素敵なものを見つけてね！」というものであろうと、信じてみた。やがて飛行機は着陸態勢に入った。真つ暗闇の空港への着陸である。ランディングした後にアナウンスがはいった。現地時間午前0時13分。天候晴れ、気温華氏マイナス16度(摂氏約マイナス25度)のことだ。いきなりシカゴでも一番寒い時期の気温だ。アラスカの玄関ともいえるべく、テッド・ステイブンス・アンカレッジ国際空港(Ted Stevens Anchorage International Airport)は、アラスカ州最大の空港でアンカレッジ市街から南西約6キロに位置する。この日はもう遅いので、とりあえず適当なモーターを見つけて泊まろうというところになった。翌日、フェアバンクスに向かうので、道沿いが良いと思ひ、アンカレッジの郊外の、いかにも「安そらな」モーターに泊まった。

## 野生動物の宝庫アラスカ

翌午前9時、我々一行はアラスカハイウェイ1号線を走っていた。道は完全に圧雪アイスバーンである。私は雪道には慣れていないつもりだったが、アラスカの道はかなりの事情が違つた。しかも4輪駆動車とはいえず、タイヤはノーマルタイヤなのでかなり滑る。走っている時はさほど滑ることに気がつかないのだが、一旦ブレーキを踏むとその滑りが尋常でないことに気がつく。車を停車させる場合はそれこそブレーキを極力使わず、エンジンブレーキで十分に速度を落としてから、ブレーキを軽く踏む感じではないと止まれない。特に交差点前では非常に気を配らなければならない。また車のデフロスター(フロントガラスの曇り止めのための除温暖房)は最強にしておかないと、温風が外気温に負けてフロントガラスの上の方から凍りついてくるので、これにも注意が必要だ。また後ろに座っていたミツコとソウイチが盛んに文句を言っていたのは、座席のガラス窓がすぐに凍り付いてしまふことだ。せつかくアラスカハイウェイを走って素晴らしい風景を楽しめるはずなのに、モワーンといった感じで凍り付いてしまふのである。そういう意味では運転している私は常にデフロスターのおかげで風景が楽しめるので良かった。特にハイウェイを走っている時によく色々な野生動物がひよこり顔を見せられるのが楽しい。カリブ(となく)やムースなどの大きな動物が前を横切つた時や、白頭鷲(アメリカン・ボールドイグル)が信号機の上にとまてこちを見ている時は、アラスカらしさを感じる事ができた。正午を過ぎ、しばらくすると左手に大きな山が見えてきた。マッキンレー山である。北米最高峰の山で高さは6194メートル、富士山(3776メートル)より2千メートル以上高い山である。夏場は月に1回位しか見えない山と聞いていたが、今は極寒期で空気が澄んでいるのであろう。見事な姿が我々の前に姿を現した。写真を撮る為、適当な場所に車を止めて、外に下りた。なんと気温は華氏でマイナス35度(摂氏約マイナス37度)になっていた。さつき買った防寒具を身に付けて外にでた。もう痛いばかりの寒さである。

## オーロラの観測地を探して

レストランを出る頃はもう午後8時ごろになっていた。宿探しは思ったより困難だった。条件は一人50ドル以内の出費でオーロラの観測条件が揃っていること。このオーロラの観測条件が実はフェアバンクス市内では難しいのである。フェアバンクスは人口約3万人で、アラスカで第2位の都市、つまり人がたくさん住んでいる訳で、空が街の灯でかなり明るいのである。オーロラは写真や画像などではかなりはつきりした色に見えるが、光度はかなり低く暗い。またフェアバンクスは外輪山に囲まれた盆地なので、居住(住居や工場、車など)から排出される煙の中の水分が寒さで凍結して霧状になって大気中にたたまうもの(と叫ばれる霧が発生して、街の上空に停滞してしまうので、更に視界が悪くなる。そのせいで綺麗なオーロラを観測する為には市街を出て、外輪山を越えた所、或いは市街を見下ろす場所に行かなくては行けない。ガイドブックなどで検索して大体の目星はつけていたのだが「これは良い」と思った宿がごとくと満室。仕方なく外輪山を越えて、フェアバンクス市街から完全に離れ、チャタニカ(Chatinika)と呼ばれる集落へとやって来た。もう空は真つ暗で、しんとした静けさすら感じる場所だ。地図を見る限りここから北極圏のCircleと呼ばれる場所まで、冬の間は雪が降り、道路が凍り付いていて、車の通行が非常に難しい。この旅行はひととおまけがある。この旅行記に出てくる私の後輩、ソウイチとミツコがこの6月に紆余曲折を経て結婚してしまったのである。オーロラは不吉の前兆と序章で書いてしまつたが、最近では「そうでもない」ということが明らかになった。幸せな家庭を築いてもらいたいと切に祈るばかりである。また将来、アラスカに行こう！

## 野生味溢れるカリブのシチュー

フェアバンクスに着いたのは午後6時過ぎだった。予想以上に時間がかかった。走っている時によく色々な野生動物がひよこり顔を見せられるのが楽しい。カリブ(となく)やムースなどの大きな動物が前を横切つた時や、白頭鷲(アメリカン・ボールドイグル)が信号機の上にとまてこちを見ている時は、アラスカらしさを感じる事ができた。正午を過ぎ、しばらくすると左手に大きな山が見えてきた。マッキンレー山である。北米最高峰の山で高さは6194メートル、富士山(3776メートル)より2千メートル以上高い山である。夏場は月に1回位しか見えない山と聞いていたが、今は極寒期で空気が澄んでいるのであろう。見事な姿が我々の前に姿を現した。写真を撮る為、適当な場所に車を止めて、外に下りた。なんと気温は華氏でマイナス35度(摂氏約マイナス37度)になっていた。さつき買った防寒具を身に付けて外にでた。もう痛いばかりの寒さである。とりあえずカメラを用意してタイマーで記念撮影！と思つたら、バッテリーマークが点滅している。あれよあれよという間にカメラは動かなくなつてしまった。寒さで恐るべしである。するとミツコが使い捨ての水の中カメラを出してきた。そういえば私が椎名誠氏のエッセイで極寒地を旅した時に活躍したカメラが「水中カメラ」だと書いていたというのをミツコに話したことがあった。彼女は忠実にその教えを守り、使い捨て水の中カメラを携えてきたのである。椎名氏が使い捨て水の中カメラのことを言つたかどうかはわからないが、確かにアラスカの冷たい水の中カメラが伝わりたくないのであろうか。しっかりと写真がとれたのである。



### 冬のオーロラ観測について

- ◆交通手段◆ シカゴからはアラスカ航空で、ミネアポリスからだとノースウエスト航空が毎日アンカレッジまで直行便を運行しています。アンカレッジからフェアバンクスまではレンタカーで走ることができますが、運転に不慣れな人は運転免許がなくてもいいです。またアラスカ鉄道でフェアバンクスまで行く方法もありますが、冬場は週に1往復(アンカレッジ発土曜日、フェアバンクス発日曜日)だけになってしまふので、日程調整が必要です。
- ◆宿泊◆ 一般的にフェアバンクス外輪山の山麓にあるB&Bがお勧めです。またツアーパッケージがよく使われるのが、フェアバンクス温泉です。フェアバンクスからちょっと距離がありますが、寒い中温泉も楽しめるのは魅力です。フェアバンクスでもオーロラを観測できますが、周囲が山に囲まれている分観測に最適というわけではないようです。その他にもがんばって行けばというのが「サークル温泉」で、ここはもう北極圏です。
- ◆持って行くもの◆ ツアー参加者はたいがい用意されているので、冬の防寒具は普通程度でよいですが、個人アレンジの場合は
  - フードつきのダウンコート
  - 帽子(耳がかくれるもの)
  - 防寒スボン
  - スノーブーツと手袋(かわいくない奴)
- ◆カメラ・ビデオ◆ カメラやビデオはかなり性能のよいものでないとオーロラは撮れません。もし本格的に撮影したい場合は専門家の指示を仰いで下さい。ただ普通のスナップショット程度なら、文中のミツコの用意した使い捨て水の中カメラが良かったです。